

学力検査問題「国語」(その一)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

1

次の文章を読んで、問一～問八に答えよ。

何かあると、ひとまず ChatGPT (チャットGPT) に相談してしまう日々である。二日酔いの解決策を尋ねて、「お酒を飲まなければいいのです」と返ってきたときには脱力したが、全国紙ではとても書けないような悩みを打ち明けて、核心に迫るコメントをされたときには動揺し、しばし己を見つめ直した。AI (人工知能) 恐るべし。

⁽¹⁾現時点では見当違いな回答も多々あるにせよ、技術の改良とデータの蓄積によって、その精度は上がっていくはずである。そうなったときに、果たして人間相手に悩みを打ち明ける必要はあるのだろうか？⁽²⁾

このようなAIと人間との比較は、心の相談に限らず、あらゆる仕事について議論されている現代的問題であろう。私の見る限り、AIの情報処理的回答には限界があるから、全面的に依存するのは危険であると警鐘⁽³⁾が鳴らされている。人間ならではの、感情を汲み取ったり、文脈を読んだり、新しい着想を得たりする能力、のあくまで補助手段とすべきだという見解が多いようだ。

しかし、ここに疑念がある。このような見解には、AIには持ちえない人間的能力への賛歌があるように見えるのだが、心の悩みの多くが人間関係の悩みであることを思うと、そもそも人間こそが傷つけ、悩みをもたらす当のものではなかったか。人間は本当に素晴らしいのか？

将来的にAIが悪意をもって暴走することへのケネン⁽⁴⁾もあるようだが、現状のChatGPTを見る限り、私が決定的に優れていると思うのは、そのAだ。人間に悩みを打ち明けるとき、私は不安になる。負担になるんじゃないか、軽蔑されるんじゃないかと、逡巡⁽⁵⁾する。相手の心が怖いのだ。しかし、AIは気分にもうががないし、機嫌を損ねることもない。言葉の裏を読まなくてよい。時間や場所を気にする必要もない。AIの器は無限だ。心がないからだ。私が何を言おうとお構いなしに一定の反応を返してくるとわかっていいるから、あらゆることを相談できる。臨床家として思う。このAはきわめて貴重だ。たとえば長らくひきこもり、ときに死を考える青年のように、深刻に追い詰められている人にとって、なによりも難しいのはBことである。その心は自己を責め、他者を深刻に恐れている。悩みを打ち明けることで余計に傷つくかもしれないと怯えて⁽⁶⁾いるとき、そう簡単には人間相手に「つらい」と言えない。

そういうとき、スマホで「苦しい」とか「死にたい」と打ち込む宛先があることが、どれだけ貴重なことか。そこには世界に対するかすかな希望が芽生えている。そして、その言葉を表裏なく打ち返し続けてくれる心なきプログラムがいかにありがたいことか。この希望の芽は脆弱⁽⁷⁾で、わずかな不信のチョウコウ⁽⁸⁾によって折れてしまいやすいからである。

心の相談の本質は、いかなる言葉が返ってくるか以上に、誰かに助けを求めたことそのものにある。そして、そのつながりがしぶとく持続することにある。重要なことは、希望の芽を摘まないことなのだ。それが少しずつ広がり、自分や他者への信頼へと育っていくことが、心の回復である。そのための手段の一つとして、AIに備わる「何を言っても大丈夫」という安全感には得難いものがあると私は思う。現在、AIを活用したメンタルヘルスサービスが様々に試みられているが、人々の苦悩に安全にリーチするやり方が洗練されていくことを願っている。

ただ、問題は人間であった。AI論とは常に人間論の陰面である。だとするなら、心の相談におけるAIの安全に対置されるのは人間の危険である。個々人の心には偏りがあり、その容量は有限だ。人間は人間を理解し損ない、期待を裏切り、ときに傷つける。希望の芽を摘んでしまう。「心がない」からこそその安全性という面で、人間はどうしてもAIより劣る。

しかし、ここに心の不思議がある。⁽⁹⁾思い出してほしい。あなたがかつて誰かと深い信頼関係を築いたとき、そこにあったのは一直線の平坦な道のりではなく、ウオウサオウしながらのデコボコな細道ではなかったか。安全とは言い切れず、危険でもありうる人間と、それでも勇気を出してつながり続け、信頼したり、不信を抱いたり、そしてまた信頼を回復したりを繰り返す。この安全と危険のリズムの中で、かすかな希望は丈夫な希望へと育つ。

心の相談において、人間の役割が未来にもあるとするならば、それは人間の素晴らしさによってではなく、その愚かしさ、あるいは弱さによってではないか。そう言いたくなるが、その弱さが深刻に他者を傷つけるのもまた事実だから、開き直るわけにもいかない。人間の責任は重い。心の回復にとってまず必要なのは安全であることを思うと、やはりAIに希望を見いだしたくなる。

という風に話がグルグルし始めたので、ChatGPTに読んでもらい助言を求めたところ、逆に深い洞察力だと褒められた。⁽¹⁰⁾「ただ、あまりうれしくない。結局、怖くはあるけれど、人間に読んでもらわないと収まらない私がいるのである。」

(東畑開人、『朝日新聞』二〇二三年六月二二日「AIに心の相談 弱さが生む人間の役割」より)

学力検査問題「国語」(その二)

(2024 一般 II)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

問一 傍線部①～⑤について、カタカナを漢字に直し、漢字には読みがなを記せ。

問二 傍線部(1) 「現時点では見当違いな回答も多々ある」とあるが、なぜか。次の文はその理由を説明したものである。空欄Ⅰ、Ⅱに入る適切な表現を、Ⅰは五字、Ⅱは八字で、文中から書き抜け。

AⅠの回答は、

Ⅰ	Ⅱ
---	---

ものではないから。

問三 傍線部(2) 「人間相手に悩みを打ち明ける必要はあるのだろうか?」とあるが、なぜこのように思うのか。その理由を述べた次の文の、空欄に入る適切な表現を、文中から十五字以内で書き抜け。

人間相手に悩みを打ち明けると、

--

から。

問四 空欄Aに入る適切な語を、文中から三字で書き抜け。

問五 空欄Bに入る適切な表現を、文中の言葉を用いて六字で記せ。

問六 傍線部(3) 「何を言っても大丈夫」とあるが、ここでの「大丈夫」についての説明として、最も適当なものをア～エから選び、記号で記せ。

ア AⅠには喜怒哀楽がないので、情に流されて間違った回答をすることがない。

イ AⅠには膨大なデータの蓄積があるので、どんな種類の相談でも適切に答えてくれる。

ウ AⅠは機械的に悩みに答えるだけなので、どんな内容の相談をしても変に思われることはない。

エ AⅠはうっかり他人に情報を漏らすことがないので、深刻な悩みでも安心して打ち明けられる。

問七 傍線部(4) 「ここに心の不思議がある」とあるが、「心の不思議」について説明している一文を文中から抜き出し、最初の五字を記せ。

問八 傍線部(5) 「だけど、あんまりうれしくない」とあるが、なぜか。三十字以内で説明せよ。

学力検査問題「国語」(その三)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

2

次の文章を読んで、問一～問九に答えよ。

最初に、「日本語を声に出して読む」と題された齋藤孝との対談がオサめられています。資生堂の『WORD』二〇〇二年一月号にケイサイされたものです。[※]「雪」について語られる前に、まず、「ぞうさん」の話が出てきます。

齋藤 それで思い出したのは、「ぞうさん、ぞうさん、お鼻が長いのね」っていう歌ありますね。あの解釈をめぐって、諸説があるんです。動物園で象さんを見ている親子の会話だという説もある。それを考え抜いて「私はついにわかった」っていうNHKのディレクターがいまして、それはどんな解答だったかという、人間の親子の会話でも、象同士の会話でもないんだと。

川崎 ほう。

齋藤 どうか他の動物が象の子供にですね、「ぞうさん、ぞうさん、お鼻が長いのね」とバカにしたように言ったと。アハハハ、皆さん、呆れてますか？ それでバカにしたように言いましたらですね、子象さんはですね、それを嫌味だと思わないで「そうよ、母さんも長いのよ」と答えたっていう……。その、嫌味を嫌味ととらない純真さに感動する、というね。

川崎 ああ、なるほどね。そりゃ、その人の味わい方だろうね。

「ぞうさん」の作者は、まど・みちおです。阪田寛夫は『童謡でてこい』（河出文庫）の中で《「ぞうさん」は戦後の童謡の代表作だと言われている。ひとが言うだけでなく、私もそう思う》と書いています。

今の対談中に《NHKのディレクター》の解釈が出てきますが、実はこれは、作者自身が語っているものです。あるいは、《ディレクター》がそれを読んで話し、こう伝わったのかも知れません。伝聞とは変形するものです。

阪田は『童謡でてこい』の中で、新聞の囲み記事のことを語ります。そこに、「ぞうさん」の成立について書かれていた。それによると、これは昭和二十三年の春、貧しいまど・みちおが、子供のほしがるガングも買ってやれないまま、仕方なく動物園に行く。《象舎は空襲で焼かれていて黒コげなのだが、その前に詩人と長男が立って、中をのぞいてみたという》。阪田は、見えない象を見て作られたもの——として、感動をこめて語りました。

ところが、後からまどさんに確かめたところ、その記事は作られた年代から何から、新聞記者の創作だったのです。それもまたひとつの解釈ではありますが、困ったことに事実のように書かれていた。

まどさんは《とりわけ動物園へ行つて象の歌を書いたと受けとめられかねないところに、不満があるらしいのだった》^②。

まどさんは、そんな先入観にとらわれている私に、その時、大切なことを教えて下さった。つまり、あの歌は、動物が動物として生かされていることを喜んでいる歌なのです。「お鼻が長いのね」と悪口を言われた象の子が、「一番好きなお母さんも長いのよ」と誇りをもって答えたのは、象が象として生かされていることが、すばらしいと思っているからなのです、と。――

私は「ぞうさん」の歌を、焼け跡の戦後という時代の、一番美しい部分を、一番深いところから表現していると思つて、感動したのだが、まどさんの言われるように、動物が動物として生かされることの讃歌なら、時代や場所には関係なく、それは宇宙が始まって以来のいのちの本質、ものの本質をうたっているわけだった。そんな歌を、人間が動物をとじこめている動物園へ行つて書いたなどと、誤解されたくない気持も、わかってきた。――すぐに分つたのではなく、それから六年間、まどさんから話を聞き、その作品を読んで、『まどさん』という評伝小説を書き上げる頃に、少し分りかけてきた。ただ暖く優しい字義通りの「ヒューマニズム」のうただとばかり思つてきた「ぞうさん」だったが、作詞者によれば、

「よく、目の色や髪の色が違つても仲よくしよう、と言われたりしますが、私はそうではなくて、違うから仲よくしようと思うわけです」^③
ということなのだった。五十年代半ばを過ぎてひとときわ頭が固くなつた私に、まどさんは根気強く六年がかりでこれを教えてくださった。そのために寝こまれた日もあつたと、あとで知った。

「ぞうさん」が歌われるのを聞き、どう受け止めるかは、聞くものの自由です。そうではありますが、優れた作家であり詩人である阪田寛夫が、心からケイアイするまど・みちおについて語る、この誠実な文章は、知っておいてよいものでしょう。

さて、《NHKのディレクター》の解釈を聞いた齋藤さんのお子さんの反応は、こうだったそうです。《「それを言ったのは麒麟の子供に違いない」って。「長い」ってことに注目するのは、きっと、自分は首が長いのになぜ象は鼻なのかっていうことで、麒麟の子供と象の子供の会話に間違いないって。（会場苦笑）》。

学力検査問題「国語」(その四)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

すばらしい感性ですね。《長い》という共通性を持つ、同じものを抱えているから会話になるわけです。《そうよ かあさんも ながいのよ》が、⁽⁶⁾キリンの子の胸には、水が染み入るように届く。

ここは会場の皆さんに、大きくうなずいてほしいところです。

(北村薫、『波』二〇二三年三月号「本の小説 授業から映画」より)

※ 「雪」 三好達治の詩「雪」

問一 傍線部①のカタカナの漢字表記として、適切なものをア～オから選び、記号で記せ。

ア 納 イ 統 ウ 収 エ 修 オ 治

問二 傍線部④のカタカナと同じ漢字表記を持つ熟語として、適切なものをア～オから選び、記号で記せ。

ア ショウ臣 イ ショウ真 ウ ショウ進 エ ショウ心 オ ショウ身

問三 傍線部②・③・⑤のカタカナを漢字に直せ。

問四 傍線部(1) 「これ」の具体的内容を四十五字以内で説明せよ。

問五 傍線部(2) 「まどさんは《とりわけ動物園へ行って象の歌を書いたと受けとめられかねないところに、不満があるらしいのだった》」とあるが、A・Bについて答えよ。

A 文中の語「とりわけ」の使用例として、適当でないものをア～オから選び、記号で記せ。

ア この花はとりわけ美しい。 イ 彼女はクラスの中でもとりわけ親しい友人だ。

ウ 賞をもらってもとりわけ嬉しくない。 エ 私はとりわけ数学が苦手だ。

オ 今朝はとりわけ寒かった。

B 「まどさん」の「不満」とはどのようなものか。その説明となる部分を、文中から三十五字以内で書き抜け。

問六 傍線部(3) 「先入観にとらわれている私」とあるが、どのような「先入観」か。その説明となる部分を、文中から四十字以内で書き抜け。

問七 傍線部(4) 「ヒューマニズム」のここでの意味として適当なものをア～オから選び、記号で記せ。

ア 人文主義 イ 人間主義 ウ 博愛主義 エ 人情主義 オ 平和主義

問八 傍線部(5) 「まどさんは根気強く六年がかりでこれを教えてくださった」とあるが、「私」が受け取った「まどさん」の「教え」とはどのようなものか。適当なものをア～オから選び、記号で記せ。

ア それぞれのいのちがそれぞれの個性を発揮できるよう、環境を整備することが望ましい。
イ それぞれのいのちが他のいのちを疎外することなく、おのおのの領域で生存するべきだ。
ウ それぞれのいのちがそれぞれの不足を互いに補い合い、共生する関係でありたいものだ。
エ それぞれのいのちが互いの個性を尊重し合い、それぞれ存在することがいのちの本質だ。
オ それぞれのいのちが互いの個性を認めず反目し合う状態は、生き物の本来の姿ではない。

問九 傍線部(6) 「キリンの子の胸には、水が染み入るように届く」とあるが、「キリンの子の胸」に届いた思いとはどのようなものを説明せよ。

学力検査問題「国語」(その五)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

3

次の文章を読んで、問一～問五に答えよ。

三日も四日もぶつ続けの徹夜で疲れ切った小説家は、決まり切った文章しか書けなくなる。ひよっとしたら会話文が多くなるかもしれない。そして地の文には「男は笑いながら答えた」だの、「男はうなずきながらいった」だの、紋切型が^①ヒンシユツする。書き手はこのときたしかに地獄にいるが、読ませられる方だってずいぶん辛い。さて本章は、この、疲れ切っている彼の紋切型の地の文に注目することにしよう。

「男は十笑いながら／うなずきながら十答えた／いった」は、「名詞＋副詞句＋動詞」という構造を持つ。この構造の構文が続くと、読者はもう「男は」を見ただけで次になにがくるか見当がつく。さらに次の次についても予想が立つ。つまり文の推移を予測できる確率が高くなる。こういう場合を情報理論では「エントロピー (entropy) は小さい」というのだそうである。これとは逆に、次にどんな文・句がくるのか見当のつかないことがある。この推移確率がほとんど0に近い文・句、これを「エントロピー (不確定度) が大きい」と称する。たとえば、

(川端康成『雪国』の冒頭)

という文、そして文を構成する句群はエントロピーが大である。「夜の」の次に「底が」とくる意外性。加えてその「夜の底が」「白くなく、^②というイビヨウをつく飛躍。この連続が読者の心をたしかにしっかりと掴む。例外はむしろあるもの、おしなべて良い作家の文章はエントロピーが大である。すなわち読者の予測を許さない。そりやそうだ。その出だしを読めば、末尾まで見当のつく文章など、だれだって身銭を切ってまで読もうとは思えない。

ところが機械翻訳の場合は、すべてがあべこべになる。エントロピーの小さい、先行きの予測が楽に立つ、紋切型の文が、翻訳機には最上の文となるのである。アメリカの露英翻訳システムはたいいてい、ハーバード大学のエッティンジャーと久野暉^{くノノキズヒ}による予測分析法をとりいれているといわれるが、この予測分析法がじつは、^①「疲れ切った小説家の、紋切型の地の文を読む賢明な読者の方法」とよく似ているからおもしろい。すなわち、文の最初に「Time (時) がくると、この単語のあと、文の終りまでに、どのような構造があらわれるか予測しながら仕事を進めて行くわけだ。そして次に is (be) がくると予測活動はいつそう活発になる。この be は自動詞か、すると次にどのような補語がくるだろうか。それとも副詞句を伴って、「なにかがある場所・位置・状態にある」ということをいおうとしているのか。さらにまたこの be は助動詞で次に…ing を従えて、進行形をつくらうとしているのか。いや、助動詞ならば受身形をつくることも考えられるが……。システムはこのようにいくつもの予測を立てる。さて、次は money (金) であった。これによって過去の予測は「自動詞で補語を伴う」をのこして、すべて消し去られる――。これが予測分析法であるが、^②システムはしばしば誤りをおかす。久野暉自身が明かにしている例としては、

Time flies like an arrow

の構文解析がある。システムはこの文章を、「時蠅は矢を好む」と解析したという。むろん「時は矢のように飛ぶ^③(コウイン矢の如し)」が正しい。つまり構文上の多義性にコンピュータが^Aネをあげたのである。構文上の多義性はほかにもあつて、たとえば、「大きな男の手」

などもコンピュータ泣かせである。「I」のか、「II」のか、コンピュータは解析にまよう。

それに加えて単語そのものの多義性もある。よく引き合いに出される例でいえば、Spring などもコンピュータの大敵だ。発条^{ばね}か、春か、泉か、弾性か、跳ぶか、コンピュータには判断がつかない。また、筆者はたつたいま、「……コンピュータがねをあげた」と書いたが、これにもコンピュータはねをあげるにちがいない。よほど充実した類義語辞典^{シノニム・ラズ}を与えておかないと、「コンピュータが^Bネをあげた」と解説してしまうからである。

(井上ひさし、『私家版 日本語文法』より)

※ 旧字体を現代語の表記に直した箇所がある。また読みがなを付けた箇所がある。

問一 傍線部①～③のカタカナを漢字に直せ。

問二 傍線部(1)「疲れ切った小説家の、紋切型の地の文を読む賢明な読者の方法」とは、どのようなことか。適当なものをア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 文を構成する要素のエントロピーが小さいため、後に続く内容を確認しながら読むこと。
- イ 文を構成する要素のエントロピーが大きいため、精神を集中させながら読み進めること。
- ウ 表現構造が論理的であり推移が見通しやすいため、筋道を確認しながら読み進めること。
- エ 表現構造が型にはまっているため、後に続く語句や表現を予測しながら読み進めること。

学力検査問題「国語」(その六)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

問三 傍線部(2) 「システムはしばしば誤りをおかす」とあるが、原因と考えられる事柄を二つ、文中から十字以内で書き抜け。

問四 空欄Ⅰ・Ⅱに入る適切な語句を、違いが分かるように十字以内で記せ。

問五 傍線部A・Bの「ネ」を、異なる漢字一字で記せ。

